

## 可児市市内遺跡発掘調査報告書

(H22～25年度)

2014

岐阜県可児市教育委員会



# 可児市市内遺跡発掘調査報告書

(H22～25年度)

2014

岐阜県可児市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、国庫補助金を受けて実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 本書には、平成 22～25 年度に実施した試掘確認・立会調査等及び美濃金山城跡の石垣の測量成果を掲載する。
3. 本書の編集と執筆は長江真和が担当した。
4. 各年度の現場及び整理作業の体制は次のとおりである。

### 平成 22 年度

教育長	井戸 英彦
教育部長	亀井 和紀
文化振興課長	林 良治
文化財係長	今井 博樹
調査・整理担当者	長江 真和
作業員	成尾 孝子 本田 博志 可児 定夫 五木田かちこ 遠山 浩一 長沼 信雄 前田 友子 山口 正則

### 平成 23 年度

教育長	大杉 一郎
教育部長	亀井 和紀
文化振興課長	林 良治（～平成 23 年 7 月 31 日） 桜井 孝治（平成 23 年 8 月 1 日～）
文化財係長	渡辺 義信
調査・整理担当者	長江 真和
作業員	成尾 孝子 本田 博志 五木田かちこ 遠山 浩一 長沼 信雄 前田 友子 渡邊 政吾

### 平成 24 年度

教育長	大杉 一郎
教育委員会事務局長	籠橋 義朗
教育文化財課長	山口 功
文化財係長	渡辺 義信
調査・整理担当者	長江 真和
作業員	本田 博志 吉田希美江

### 平成 25 年度

教育長	大杉 一郎（～平成 25 年 9 月 30 日） 籠橋 義朗（平成 25 年 10 月 1 日～）
教育委員会事務局長	籠橋 義朗（～平成 25 年 9 月 30 日） 高木 美和（平成 25 年 10 月 1 日～）

教育文化財課長	長瀬 治義
文化財係長	富賀見昌昭
調査・整理担当者	長江 真和
作業員	本田 博志 吉田希美江 遠山 皓一 水野テツ子 前田 友子 小山 美紀 遠山 琴音 石崎 愛梨 中村 幸子

5. 遺物の図面及び写真は、口縁部や底部など土器の特徴がわかるものを選別して掲載し、小破片は掲載していない。
6. 本書に掲載した出土遺物、図面、写真は、すべて可児市教育委員会（可児郷土歴史館）で保管している。

## 目 次

### 例言

第1章 埋蔵文化財の有無照会	1
第2章 平成22年度試掘確認・立会調査など	4
第3章 平成23年度試掘確認・立会調査など	13
第4章 平成24年度試掘確認・立会調査など	16
第5章 平成25年度試掘確認・立会調査など	25
図版	34
報告書抄録	41

# 可児市市内遺跡（H22～25）

## 図版目次

図 1 試掘確認・立会調査位置図	3
図 2 川合字東野地内試掘位置図	4
図 3 トレンチ配置図及び土層概念図	4
図 4 中恵土・下恵土地内試掘位置図	5
図 5 トレンチ配置図及び土層概念図	5
図 6 兼山魚屋町地内試掘位置図	6
図 7 トレンチ配置図及び土層概念図	6
図 8 柿田字月田地内試掘位置図	7
図 9 トレンチ配置図及び土層概念図	7
図 10 下恵土字城烟地内試掘位置図	8
図 11 トレンチ配置図及び土層概念図	8
図 12 兼山本町地内立会位置図	9
図 13 兼山汁ヶ谷地内立会位置図	9
図 14 久々利字東屋敷地内立会位置図	10
図 15 今渡字大清水地内立会位置図	11
図 16 兼山常盤町地内立会位置図	12
図 17 川合北二丁目地内試掘位置図	13
図 18 トレンチ配置図及び土層概念図	13
図 19 川合北二丁目地内出土遺物	13
図 20 川合字東野地内試掘位置図	14
図 21 トレンチ配置図及び土層概念図	14
図 22 熊野古墳立会位置図	15
図 23 川合北三丁目地内試掘位置図	16
図 24 トレンチ配置図及び土層概念図	16
図 25 川合北三丁目地内出土遺物	16
図 26 川合字東野地内試掘位置図	17
図 27 トレンチ配置図	17
図 28 兼山常盤町地内立会位置図	18
図 29 兼山玉川町地内立会位置図	19
図 30 兼山殿町地内試掘位置図	19
図 31 トレンチ配置図及び土層概念図	20
図 32 大森皿屋敷横穴墓群立会位置図	20
図 33 美濃金山城跡 西Ⅲ（出丸）石垣	22
図 34 美濃金山城跡 西Ⅱ（三の丸）	
平面図	23
図 35 美濃金山城跡 西Ⅱ（三の丸）SV1	
図 36 美濃金山城跡 西Ⅱ SV2	24
図 37 牟田洞古窯跡立会位置図	25
図 38 銅鐸発掘の地内試掘位置図	25
図 39 トレンチ配置図及び土層概念図	26
図 40 銅鐸発掘の地内立会位置図	26
図 41 兼山盛住町地内立会位置図	27
図 42 長塚古墳立会位置図	28
図 43 美濃金山城跡 西Ⅱ SV3	30
図 44 美濃金山城跡 西Ⅱ SV9	30
図 45 美濃金山城跡 西Ⅱ SV4	31
図 46 美濃金山城跡 西Ⅱ SV8	31
図 47 美濃金山城跡 西Ⅱ SV5	32
図 48 美濃金山城跡 西Ⅱ SV6	32
図 49 美濃金山城跡 西Ⅱ SV7	33
図 50 美濃金山城跡 西Ⅱ SV10	33

## 表目次

表 1 埋蔵文化財有無照会集計表	1
------------------	---

## 写真図版目次

図版 1 各現場写真 1	34
図版 2 各現場写真 2	35
図版 3 各現場写真 3	36
図版 4 各現場写真 4	37
図版 5 各現場写真 5	38
図版 6 各現場写真 6	39
図版 7 各現場写真 7	40

## 第1章 埋蔵文化財の有無照会

可児市では、市内遺跡発掘調査事業の一環として、市内の土地について埋蔵文化財の包蔵の有無について照会を文書で受け付け、回答している。これは、開発行為等に際し、埋蔵文化財を保護するため事前に把握してもらうためだけでなく、その照会記録を残すことにより、事後の開発に対して教育委員会と開発事業者双方がスムーズに協議し、対処しやすくするためでもある。平成22～25年度の照会件数等は、次に示すとおりである。

年 度	事業別	件 数		回 答 内 容					
		有	無	無	慎重	立会	試掘	本掘	現保
平成22年度 照会件数 363件	民間事業	35	327	318	9	21	10	2	
	公共事業		1	1					
	合 計	35	328	319	9	21	10	2	0
平成23年度 照会件数 355件	民間事業	23	328	323	5	3	15		
	公共事業	1	3	3					1
	合 計	24	331	326	5	3	15	0	1
平成24年度 照会件数 478件	民間事業	10	458	452	6	4	6		
	公共事業		10	10					
	合 計	10	468	462	6	4	6	0	0
平成25年度 照会件数 491件	民間事業	16	460	448	12	8	8		
	公共事業	1	14	14				1	
	合 計	17	474	463	12	8	8	1	0

第1表 埋蔵文化財有無照会集計表

※件数と回答内容の合計が同数とならないのは、回答に複数の内容を含むものがあるとともに、1件の照会の中に複数場所の土地を含むものが多くあるためである。

※慎重－慎重工事 立会－工事立会 試掘－試掘調査 本掘－本発掘調査  
現保－現状保存

本件数はあくまでも有無の照会による回答であり、実際に事業実施に至っているとは限らない。試掘調査以外の各年度の本発掘及び測量調査は下記の通りである。なお、金山城跡は平成25年10月に国史跡となり、「美濃金山城跡」という名称になったため、本報告書では指定名称である美濃金山城跡を用いる。

平成 22 年度

- ・坂戸上野遺跡・坂戸上野古墳の緊急発掘調査（報告書は平成 26 年度刊行予定）
- ・美濃金山城跡の三の丸、左近屋敷等保存目的の調査及び測量調査（平成 24 年度刊行済の報告書に掲載）

平成 23 年度

- ・山神弥生墳丘墓・桐野 1 号弥生墳丘墓の緊急発掘調査（報告書は平成 23 年度刊行済）
- ・美濃金山城跡の石垣及び地形測量（平成 24 年度刊行済の報告書に掲載）

平成 24 年度

- ・美濃金山城跡の石垣測量（本報告書に掲載）
- ・大萱古窯跡群（牟田洞古窯跡）の地形測量（平成 27 年度刊行予定の報告書に掲載）

平成 25 年度

大萱古窯跡群（牟田洞古窯跡、窯下古窯跡）の保存目的の試掘調査及び測量調査については、今回の報告書では掲載せず、平成 27 年度刊行予定の報告書に譲る。

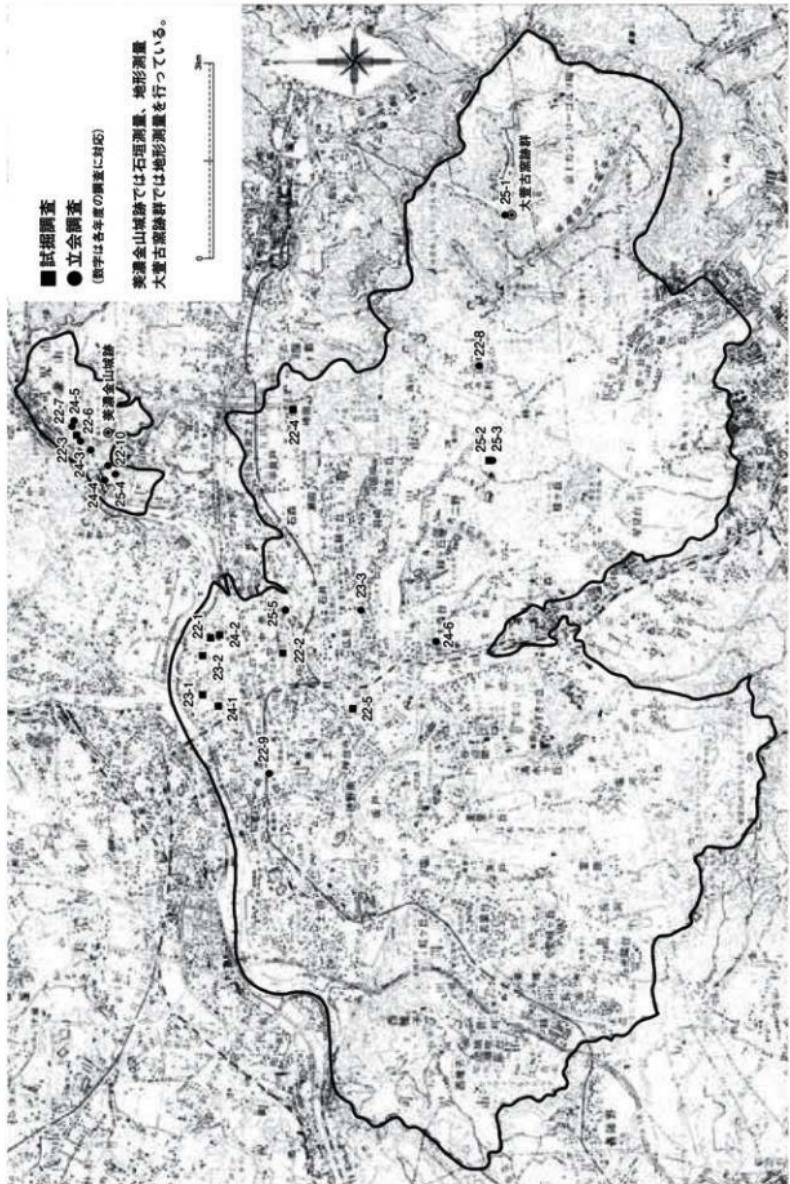


図1 試掘確認・立案調査位置図

## 第2章 平成22年度試掘確認・立会調査など

### 22-1 川合字東野地内試掘

#### 1. 調査原因等

可児市川合地内において、分譲住宅建築が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である川合東野遺跡の範囲内とも考えられたため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、掘削、埋め戻し作業を含め、平成22年7月5日に長江真和が行った。

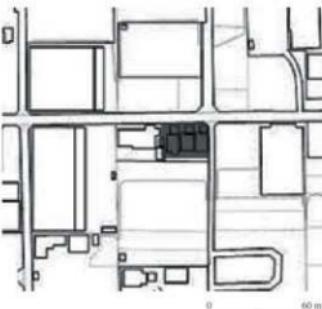


図2 川合字東野地内試掘位置図

#### 2. 調査内容

東西方向に2本のトレンチを設定し、重機により掘削を行った。地山検出面では、ビニール片を含む2本の溝が二条検出された。地山面では、0.1～0.4mの川原石が多くみられる他に窪みもみられたが、窪み内に遺物はみられなかった。これらの窪みは河川の作用によるものと考えられ、他に遺構はみられなかった。また、掘削土内にも遺物はみられなかった。

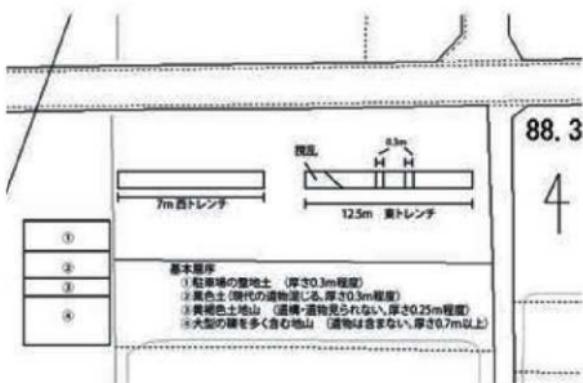


図3 トレンチ配置図  
及び土層概念図

#### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成22年7月6日付 教文振第36号の2 埋蔵文化財発掘届出

市教委発 平成22年7月12日付 教文振第36号の3 発掘調査終了報告

県教委発 平成22年7月21日付 社文第6号の136 慎重工事通知

## 22-2 中恵土、下恵土地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市下恵土可児警察署地内における待機宿舎新築に伴い、事前協議が行われた。建設予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である可児工業高校南遺跡の範囲である可能性があり、事業者から試掘調査の依頼をうけ、所定の手続きを経て試掘調査を実施した。

試掘調査は重機の提供を受け、掘削、埋め戻し作業を含めて、平成 22 年 7 月 7 日に長江真和が行った。

### 2. 調査内容

建設予定地に幅 1.0m、長さ約 26m のトレーナーを東西方向に設定し、掘削を行った。地表面から約 0.7m の深度で地山面がみられたが、地山面に遺構はみられなかった。可児工業高校南遺跡は縄文・中世の遺跡と考えられているが、該当期の遺物もみられなかった。

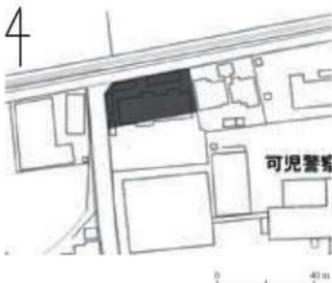


図 4 中恵土・下恵土地内試掘位置図

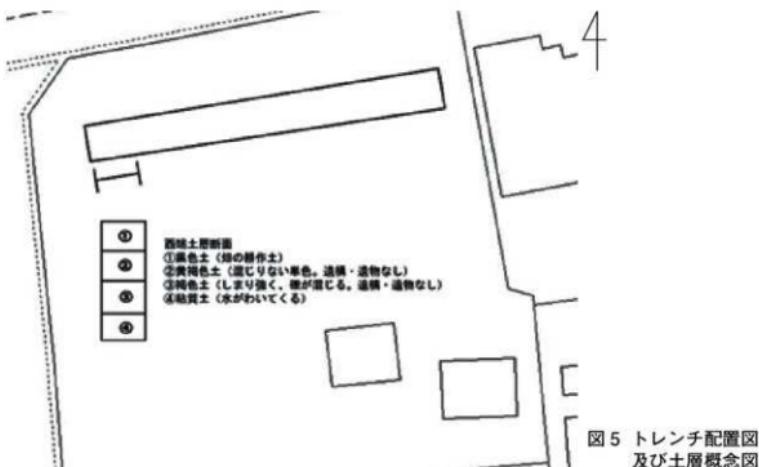


図 5 トレーナー配置図  
及び土層概念図

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発	平成 22 年 5 月 21 日付	教文振第 34 号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発	平成 22 年 10 月 18 日付	社文第 7 号の 21	工事立会通知
市教委発	平成 22 年 7 月 16 日付	教文振第 34 号の 2	発掘調査終了報告

## 22-3 兼山魚屋町地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市兼山地内において、市有地売り払いのための事前照会をうけた。当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内と想定されるため、所定の手続きを経て試掘調査を実施した。

試掘調査は掘削、埋め戻し作業を含め、平成22年8月31日に長江真和が行った。



図6 兼山魚屋町地内試掘位置図

### 2. 調査内容

調査地内に $1.0 \times 1.0\text{m}$ のトレンチを8ヶ所設定した。全トレンチとともに掘削深度が1.0m程度で地山となる。この場所は、以前に兼山町営住宅が建っており、その際に埋め立てが行われているため、地山面の上までは埋立土である。埋立土の中には亜炭やコンクリート片などがみられた。地山面である灰白色の粘質土では遺構は検出されず、金山城下町遺跡に関する遺物は出土しなかった。

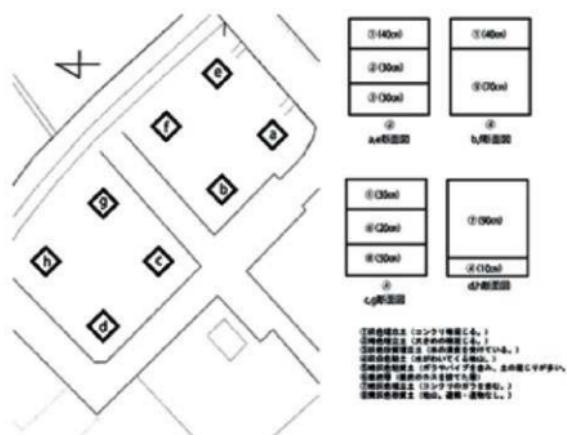


図7 トレンチ配置図  
及び土層概念図

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、今後施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成22年9月2日付 教文振第58号 埋蔵文化財発掘通知

市教委発 平成22年9月6日付 教文振第60号 発掘調査終了報告

県教委発 平成22年9月13日付 社文第7号の63 慎重工事通知

## 22-4 柿田字月田地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市柿田地内において、新築住宅建設が計画され、事前協議が行われた。建設予定地は平地部分より一段高い丘陵地部分であるが、周知の埋蔵文化財包蔵地である柿田遺跡の範囲内とも考えられた。所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は掘削、埋め戻し作業を含め、平成 22 年 10 月 12 日に長江真和が行った。

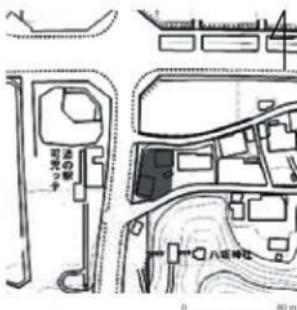


図 8 柿田字月田地内試掘位置図

### 2. 調査内容

区域内に幅 2.0m、東西に長さ 10m と南北に長さ 19m のトレンチを設定した。東西トレンチは地表面から約 2.7m、南北トレンチは地表面から約 2.1m の掘削を行った。掘削部分はタイル片等が混じる造成土であり、改変を受けていない地山では遺構・遺物は検出されなかった。南北トレンチの南側では地山を切り盛りしている部分もみられ、建設予定地は過去に造成を受け、遺構があった場合でも改変時に削平されていると考えられた。

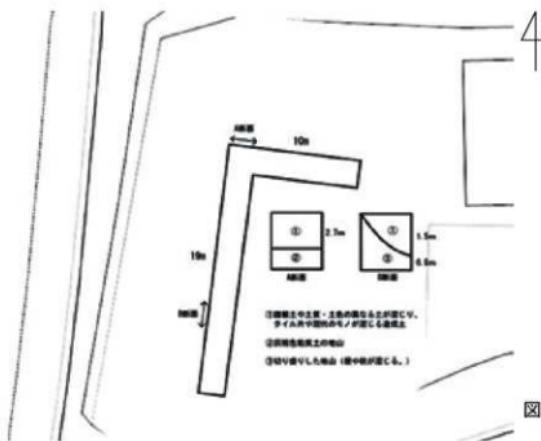


図 9 トレンチ配置図  
及び土層概念図

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 22 年 10 月 12 日付 教文振第 71 号 埋蔵文化財発掘届出

市教委発 平成 22 年 10 月 18 日付 教文振第 71 号の 3 発掘調査終了報告

県教委発 平成 22 年 10 月 18 日付 社文第 6 号の 269 慎重工事通知

## 22-5 下恵土字城畠地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市下恵土地内において、住宅建設が計画され、事前協議が行われた。建設予定地は縄文時代の散布地である周知の埋蔵文化財包蔵地上屋敷遺跡の範囲内とも考えられたため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は掘削、埋め戻し作業を含め、平成 22 年 10 月 18 日に長江真和が行った。



図 10 下恵土字城畠地内試掘位置図

### 2. 調査内容

建物建設が行われる基礎部分を中心に、幅 1.0m、長さ 2.1 ~ 2.7m のトレーナーを 4 本設定した。掘削深度約 1.4m で灰白色の地山がみられた。地山面までは、タイル片やプラスチック等がみられる埋立土であり、地表面から約 1.4m 下の地山面には遺構はみられなかった。堆積土内からも明治以前の遺物は検出されなかった。



図 11 トレーナー配置図  
及び土層概念図

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 22 年 10 月 18 日付 教文振第 73 号 埋蔵文化財発掘届出  
市教委発 平成 22 年 11 月 1 日付 教文振第 73 号の 3 発掘調査終了報告  
県教委発 平成 22 年 10 月 26 日付 社文第 6 号の 282 慎重工事通知

## 22-6 兼山本町地内立会

### 1. 調査原因等

可児市兼山地内において住宅建設が計画され、事前協議が行われた。建設予定地は、南側にそびえる古城山山頂に位置する美濃金山城跡の城下町遺跡の範囲内と考えられたため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成 22 年 9 月 7 日に長江真和が行った。



図 12 兼山本町地内立会位置図

### 2. 調査内容

柱状改良に伴い、立会調査を実施した。掘削深度は約 3.0m であり、堆積土はビニール等が混じり、地表面より 1.0m 付近までの深さは埋立てを行っているか、以前建物を建てた時に改変を受けていると考えられる。堆積土の下は地山面であるが遺構は確認できず、堆積土の中にも金山城下町遺跡に関する遺物は検出されなかった。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発	平成 22 年 9 月 6 日付	教文振第 59 号	埋蔵文化財発掘届出
県教委発	平成 22 年 10 月 18 日付	社文第 6 号の 216	工事立会通知
市教委発	平成 22 年 9 月 14 日付	教文振第 63 号	発掘調査終了報告

## 22-7 兼山汁ヶ谷地内立会

### 1. 調査原因等

可児市兼山地内において、携帯電話無線局の設置が計画され、事前協議が行われた。

近隣には工場が建設されているものの、周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内の可能性もあるため、所定の手続きを経て工事立会を実施した。

立会調査は、平成 22 年 12 月 21 日に長江真和が行った。



図 13 兼山汁ヶ谷地内立会位置図

### 2. 調査内容

基地局の設置位置は、現地表面から 0.8m 程度下がっている。工場の人の話によると、当地は魚の池として使用された後にゴミ捨て場として利用されていた。

掘削深度は約 1.5m であり、角礫や川原石が混じる後世の盛土がみられた。盛土の下は、黄灰色土が混じる灰色の粘質土である。

掘削土内には遺物はみられず、平面においても遺構はみられなかった。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 22 年 12 月 7 日付	教文振第 85 号	埋蔵文化財発掘届出
県教委発 平成 22 年 12 月 14 日付	社文第 6 号の 366	工事立会通知
市教委発 平成 22 年 12 月 24 日付	教文振第 85 号の 2	発掘調査終了報告

## 22-8 久々利字東屋敷地内立会

### 1. 調査原因等

可児市久々利地内において、携帯電話基地局の設置が計画され、事前協議が行われた。設置位置は、周知の埋蔵文化財包蔵地である千村家屋敷跡に接している。現在建っているコンクリートの柱を抜き、新たに設置する工事であり、掘削面積が狭小であるため、工事立会を実施した。

立会調査は、平成 23 年 1 月 12 日に長江真和が行った。

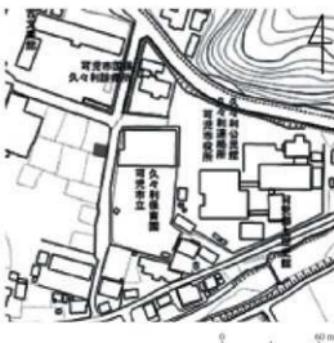


図 14 久々利字東屋敷地内立会位置図

### 2. 調査内容

現在は畑であり、既存のコンクリート柱を撤去した後、直径約 0.8m、掘削深度約 2.6m の掘削を行った。地表面より 1.0m 下はビニール線等を含む畠土であり、その下に黄褐色の粘質土がみられた。掘削深度 2.0m 程度で水がわいており、掘削深度内の平面・断面とともに遺構はみられなかった。また、堆積土内に千村家屋敷跡に関する遺物はみられなかった。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 23 年 1 月 11 日付	教文振第 100 号	埋蔵文化財発掘届出
県教委発 平成 23 年 1 月 11 日付	社文第 6 号の 416	工事立会通知
市教委発 平成 23 年 1 月 27 日付	教文振第 100 号の 2	発掘調査終了報告

## 22-9 今渡字大清水地内立会

### 1. 調査原因等

可児市今渡地内において、中濃大橋御嵩線の道路改良工事が計画され、事前協議が行われた。工事箇所は周知の埋蔵文化財包蔵地である今渡遺跡の範囲内と考えられ、平成20年度に岐阜県教育委員会が試掘調査を行っている。これにより中世～近世にかけての遺構が確認されているが、水道管等の工事により遺構が壊れている可能性が高いため、工事立会を実施した。

立会調査は、平成22年11月15日・16日・19日、12月8日、平成23年2月1日に長江真和が行った。

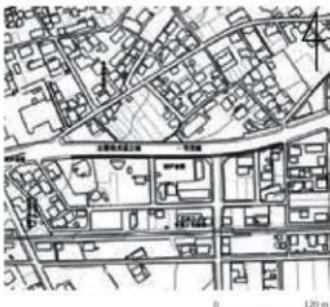


図15 今渡字大清水地内立会位置図

### 2. 調査内容

幅1.0～1.3m、深さ0.9～1.2mを掘削した側溝工に伴う立会を行った。基本層序はアスファルト層、暗灰色の砂利層、灰色埋立土層、黒色旧表土層、黄白色砂質土層となる。既存の建物の基礎や塩化ビニールのパイプ等がみられ、黒色土層の途中までは後世の改変が入っている。黄白色砂質土層には10～20cm大の川原石が混じる部分がみられる。平面・断面ともに遺構はみられなかった。また、掘削範囲において今渡遺跡に関係する遺物はみられなかった。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成22年8月20日付	教文振第50号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発 平成22年8月26日付	社文第7号の56	工事立会通知
市教委発 平成23年2月3日付	教文振第50号の2	発掘調査終了報告

## 22-10 兼山常盤町地内立会

### 1. 調査原因等

可児市兼山地内において、老朽化に伴う交通信号機の柱の建て替えが計画され、事前協議を行った。

計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内と考えられるため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は、平成23年3月11日に長江真和が行った。

### 2. 調査内容

設置してあった信号機の近接地に0.7m四方の掘削坑を空ける。掘削深度は地表面から約1.6mであり、アスファルト層の下に近接する信号機設置時のカクランが入り、カクラ

ン土から近世陶器が2点出土した。その下もカクラン土であり、掘削深度内には平面・断面とともに遺構はみられなかった。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成23年2月7日付

教文振第106号 埋蔵文化財発掘通知

県教委発 平成23年2月18日付

社文第7号の56 工事立会通知

市教委発 平成23年3月14日付

教文振第106号の2 発掘調査終了報告



図16 兼山常盤町地内立会位置図

### 第3章 平成23年度試掘確認・立会調査など

#### 23-1 川合北二丁目地内試掘

##### 1. 調査原因等

可児市川合北二丁目地内において、住宅建築が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である次郎兵衛塚古墳や宮之脇遺跡などに近接しているため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、掘削、埋め戻し作業を含め、平成24年3月15日に長江真和が行った。

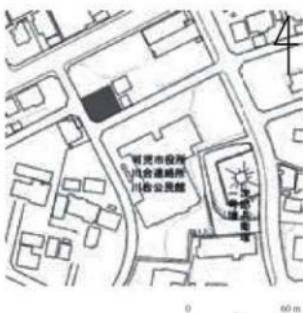


図17 川合北二丁目地内試掘位置図

##### 2. 調査内容

調査地内に幅0.6m、東西方向に長さ17m、南北方向に長さ15mの二本のトレンチを設定し、重機により掘削を行った。現地表面より約0.8m下に人頭大の川原石を含む黄灰色砂質土の地山がみられる。黄灰色砂質土層上面には遺構はみられなかった。また、その上層の黒色耕作土には須恵器や土師器、山茶碗などの破片が含まれていた。

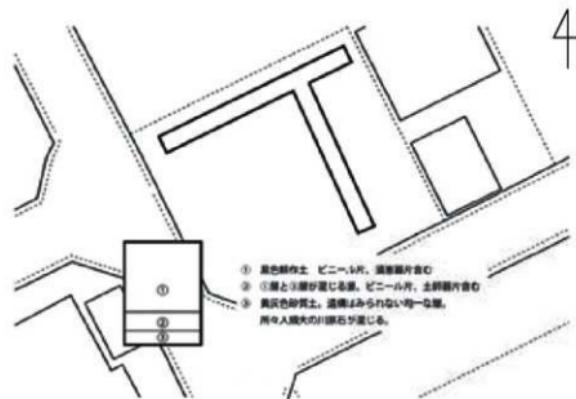


図18 トレンチ配置図  
及び土層概念図



図19 川合北二丁目地内出土遺物

番号	写真	種類	器種	口径	器高	胎土	焼成	時期	備考
1	1	須恵器	杯蓋	(14.8)	(2.3)	密	良	IV第2小期	天井部外面に自然釉

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 24 年 3 月 21 日付 教文振第 94 号 発掘調査終了報告

## 23-2 川合字東野地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市東野地内において、分譲住宅建設が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である川合東野遺跡の範囲内とも考えられたため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、掘削、埋め戻し作業を合わせ、平成 24 年 3 月 28 日に長江真和が行った。

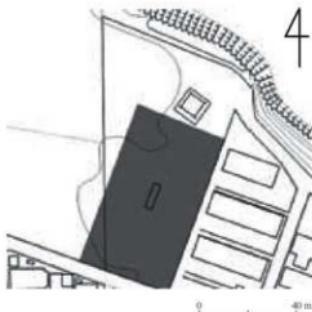


図 20 川合字東野地内試掘位置図

### 2. 調査内容

調査地内に幅 1.0m、東西方向に長さ 16.5m、南北方向に長さ 37m の二本のトレンチを設定し、重機により掘削を行った。掘削深度は地表面から 0.8 ~ 1.3m であり、東西トレンチでは溝がみつかったが、遺物が伴わず時期は不明である。南北トレンチ内でも土坑がみられたが、遺物は伴わず規則的な配列もみられなかった。また、その上層の黒色耕作土中には近世陶器がみられた。



図 21 トレンチ配置図  
及び土層概念図

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成 24 年 3 月 29 日付 教文振第 98 号 発掘調査終了報告

### 23-3 熊野古墳立会

#### 1. 調査原因等

可児市広見地内、県史跡熊野古墳の説明看板の撤去及び新設を計画し、事前協議を行った。

現在の看板の位置は県史跡内であり、過去の調査（昭和 63 年、平成 11 年）により盛土内であることが確認されている。新規の解説板は範囲外である部分に設置を行う。かつ設置に伴う掘削の面積が狭小であるため、看板の撤去及び新設に伴い、平成 24 年 3 月 30 日に長江真和が工事立会を行った。



図 22 熊野古墳立会位置図

#### 2. 調査内容

既存の解説板撤去部分は盛土内であり、平成 11 年度の調査と同様に灰（褐）色粘質土が確認された。新規の解説板を設置するための掘削部分は墳丘の範囲外と考えられ、古墳周囲の歩道整備に伴う盛土が認められた。掘削部分からは遺物はみられなかった。

なお、盛土部分の老朽化した解説板部分は、撤去後に埋め戻しを行っている。

#### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成 24 年 3 月 6 日付	教文振第 87 号	現状変更許可申請書
市教委発 平成 24 年 3 月 7 日付	教文振第 89 号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発 平成 24 年 3 月 22 日付	社文第 4 号の 162	工事立会通知
県教委発 平成 24 年 3 月 22 日付	社文第 35 号の 16	現状変更許可
市教委発 平成 24 年 3 月 30 日付	教文振第 89 号の 3	発掘調査終了報告
市教委発 平成 24 年 3 月 30 日付	教文振第 87 号の 3	完了届

## 第4章 平成24年度試掘確認・立会調査など

### 24-1 川合北三丁目地内試掘

#### 1. 調査原因等

可児市川合北三丁目地内において宅地分譲が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である次郎兵衛塚古墳群の範囲内の可能性もあるため、所定の手続きを経て試掘調査を実施した。

試掘調査は、掘削、埋め戻し作業を含め、平成24年8月7日～8日に長江真和が行った。

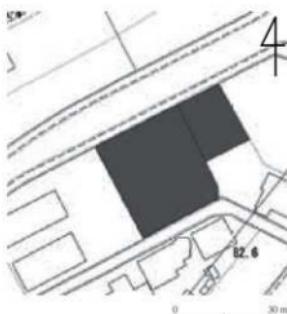


図23 川合北三丁目地内試掘位置図

#### 2. 調査内容

調査地の南東側には、古墳との伝承がある小さな盛土がみられる。区域地内に幅1.0m、長さ16.5m、7.5m、6.5m、6.5mのトレンチを4ヵ所設定し、重機による掘削を行った。掘削深度は1.6m～2.2mであり、礫層がみられるほか、地表面から2.2m下の地点で現代の鉄片などがみられ、当地は大きな改変が入っていると考えられた。次郎兵衛塚古墳群及び近接する宮之脇遺跡に関連する遺構はみられなかった。遺物は、耕作土中から須恵器や山茶碗などの破片が出土している。

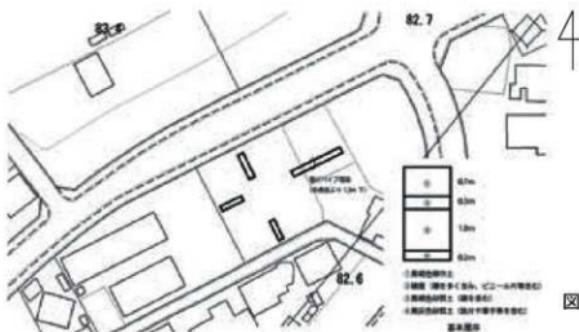


図24 トレンチ配置図  
及び土層概念図

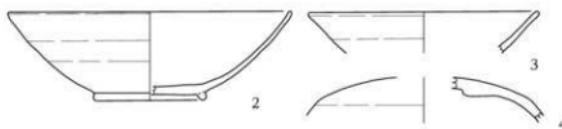


図25 川合北三丁目地内出土遺物

0 5=1:3 10m

番号	写真	種類	器種	口径	器高	胎土	焼成	時 期	備 考
2	2	山茶碗	碗	(14.5)	4.6	密	良	大谷洞 14	底部外面に糸切痕と墨書きあり。
3	3	山茶碗	碗	(11.8)	(2.1)	密	良	大洞東 1	
4	4	須恵器	長頸瓶	—	(2.4)	密	良	時期不明	

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 24 年 8 月 9 日付 教文第 36 号 発掘調査終了報告

## 24-2 川合字東野地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市川合地内において砂利採取が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である川合東野遺跡の範囲内の可能性もあるため、所定の手続きを経て試掘調査を実施した。

試掘調査は、掘削、埋め戻し作業を合わせ、平成 24 年 9 月 24 日に長江真和が行った。

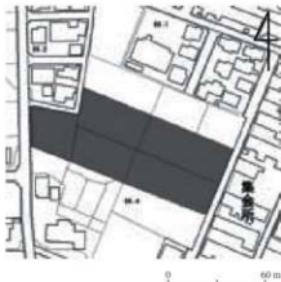


図 26 川合字東野地内試掘位置図

### 2. 調査内容

調査地内に、幅 1.0m、長さ 15m、28.5m、22.5m のトレーナーを 3 カ所設定し、重機による掘削を行った。掘削深度は 0.2m ~ 0.5m であり、畑土の下に地山と思われる黄灰色の粘質土がみられた。中央のトレーナーでは、砂利が混じる部分がみられるが地表面に遺構・遺物はみられなかった。

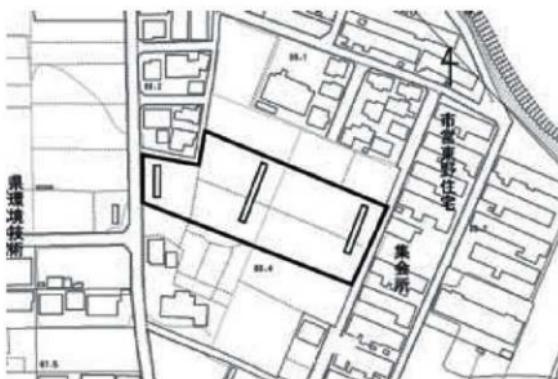


図 27 トレーナー配置図

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 24 年 10 月 2 日付 教文第 46 号 発掘調査終了報告

## 24-3 兼山常盤町地内立会

### 1. 調査原因等

可児市兼山地内において、旧兼山連絡所の取り壊しが計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内と考えられるため、所定の手続きを経て取り壊しに伴う工事立会を実施した。

立会調査は、平成 25 年 1 月 10 日に長江真和が行った。



図 28 兼山常盤町地内立会位置図

### 2. 調査内容

旧兼山連絡所（元兼山町役場）の取り壊しに伴う掘削深度は約 1.8m であり、昭和 47 年の建設時に現地表面から 1.8m ほどの深さに基盤を入れている。兼山地区には当時の地割が残されており、金山城下町遺跡の時期と現代の地表面はほぼ同レベルだと考えられるため、金山城下町遺跡の遺構があった場合には、旧兼山町役場を建設する際に滅失していると考えられる。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発 平成 24 年 10 月 22 日付 教文第 53 号 埋蔵文化財発掘通知

県教委発 平成 24 年 10 月 30 日付 社文第 4 号の 102 工事立会通知

市教委発 平成 25 年 1 月 11 日付 教文第 79 号 発掘調査終了報告

## 24-4 兼山玉川町地内立会

### 1. 調査原因等

可児市兼山地内において住宅の建て替え工事が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内と考えられるため、所定の手続きを経て、取り壊し及び新築建物の基礎掘削時に工事立会を実施した。

立会調査は、平成 25 年 1 月 18 日に長江真和が行った。

## 2. 調査内容

既存建物の基礎を掘削する際の掘削深度は0.3m程度、新築建物の基礎も同程度であり、それ以上の掘削は伴わなかった。灰褐色の埋立土には現代の遺物が混じり、平面・断面ともに遺構はみられなかった。当地は木曾川に隣接し岩盤上にあることから、金山城下町遺跡の範囲外の可能性も考えられる。

## 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

## 4. 文書手続

市教委発 平成25年1月8日付 教文第78号

埋蔵文化財発掘届出

県教委発 平成25年1月18日付 社文第3号の484

工事立会通知

市教委発 平成25年1月24日付 教文第79号

発掘調査終了報告



図29 兼山玉川町地内立会位置図

## 24-5 兼山殿町地内試掘

### 1. 調査原因等

可児市兼山殿町地内において急傾斜崩壊対策事業が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内の可能性もあるため、所定の手続きを経て、試掘調査を実施した。

試掘調査は、掘削、埋め戻し作業を含め、平成25年2月14日～2月27日に長江真和が行った。



図30 兼山殿町地内試掘位置図

### 2. 調査内容

調査地内に、2.0m×2.0mを1ヵ所、4.0m×1.0mのトレンチを2ヵ所設定し、手掘りにより掘削を行った。掘削深度は0.3m～0.6mであり、掘削土に含まれる礫の量や近現代の遺物から、3ヵ所のトレンチとともに造成や流れ込みがあったと考えられる。暗褐色、褐色の地山面は比較的良好であり、金山城下町遺跡該当期の遺構・遺物はみられなかった。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

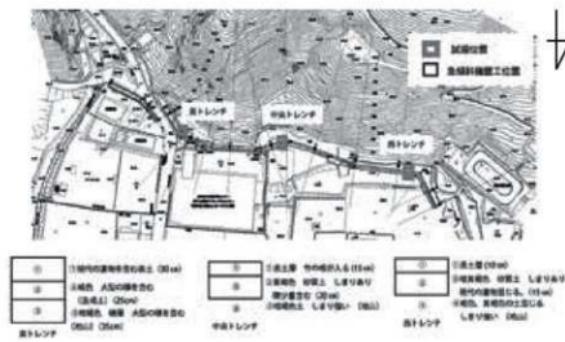


図 31 トレンチ配置図  
及び土層概念図

#### 4. 文書手続

市教委発 平成 25 年 3 月 4 日付 教文第 106 号 発掘調査終了報告

### 24-6 大森皿屋敷横穴墓群立会

#### 1. 調査原因等

可児市大森地内にある、県史跡大森皿屋敷古墳の既存解説板の撤去及び新規解説板の設置のため、所定の手続きを経て工事立会を実施した。

立会調査は、平成 25 年 3 月 26 日に長江真和が行った。

#### 2. 調査内容

地表面から 0.2m 下で凝灰質砂岩層にあたる。これは横穴墓が築造された層（岩盤）と同じであるが、現存する横穴墓の位置よりもレベルが低く、横穴墓やそれに伴う羨道部分からは外れている。



図 32 大森皿屋敷横穴墓群立会位置図

#### 3. 調査後の措置

遺跡に關係する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発 平成 25 年 1 月 29 日付	教文第 90 号	現状変更許可申請書
市教委発 平成 25 年 1 月 29 日付	教文第 91 号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発 平成 25 年 2 月 14 日付	社文第 55 号の 10	現状変更許可
県教委発 平成 25 年 2 月 15 日付	社文第 4 号の 157	工事立会通知
市教委発 平成 25 年 3 月 27 日付	教文第 111 号	発掘調査終了報告
市教委発 平成 25 年 3 月 27 日付	教文第 112 号	完了届

## 24-7 美濃金山城跡西Ⅲ（出丸）石垣測量（図 33）

平成 25 年度刊行済の『金山城跡発掘調査報告書』の時点では、この部分石垣の測量を行っていないかったため、図面と文章を掲載する。なお、掘削は行っていないため、基底石までの検出はしていない。

西Ⅲ南面石垣には植物が生えており、剪定は行わずに出丸石垣の測量を行った。東隅から約 2.3m は平成 16 年度に積み直しを行っているため、基底石付近以外は原形は残していない。東西に長さ約 37m、天端の石が残っている部分で高さ約 3.6m を測る。この部分では 11 段程に石が積まれ、他の部位では出丸の平坦面の高低に合わせた高さであったと考えられる。石垣の東側の傾斜角度は 74° で、西側に行くと約 80° となり傾斜は急になる。石材はチャートが主体であり、間詰石も同様にチャートを使用している。石材の隙間から裏込石が観察でき、裏込石は間詰石と同様の大きさのチャートが用いられていることがわかる。断面②付近より西へ 2.0m の部分では石材の積み方が異なるため、積み直しの可能性が考えられる。それより西側の積み方は東側に比べて乱雑であり、出丸平坦面の高さが低く、かつ石垣を築く傾斜も急になる。積み方の違いは、平坦面の縮小に伴う可能性が考えられる。

## 24-8 美濃金山城跡西Ⅱ（三の丸）北側石垣測量

平成 25 年度刊行済の『金山城跡発掘調査報告書』の時点ではこの部分の石垣の測量を行っていないかったため、図面と文章を掲載する。石垣の番号は刊行した報告書と異なるため、図 34 のように振り直しを行う。なお、掘削は行っておらず、基底石の検出はしていない。

### SV1（図 35）

西Ⅱの北面の石垣である。長さ約 11.0m、高さ約 1.8m を測る。東側には長さ約 5.0m、高さ約 3.3m の岩盤がみられ、岩盤と石垣部分は空いているが、裏込石が露頭していることから岩盤と石垣は連続していたと考えられる。石材は 0.3 ~ 1.0m 大のチャートで築かれ、根元には一部凝灰質砂岩がみられる。4 段積まれている部分がみられ、傾斜角は 58 ~ 65° である。西Ⅱの平坦面と高さを考慮した場合、元来は 6 石程度が積まれ、推定 2.5m 以上の高さの石垣であったと考えられる。

### SV2（図 36）

西Ⅱの西面の石垣であり、北面から連続し長さ約 4.0m、高さ約 1.3m を測る。0.3 ~ 0.8m 大のチャートで築かれ、目地を通して積まれ、角部分に算木積はみられない。3 石積まれている部分がみられ、傾斜角は 58 ~ 65° である。西Ⅱの平坦面と高さを比較した場合、元は推定 2.7m 以上の高さの石垣と考えられる。

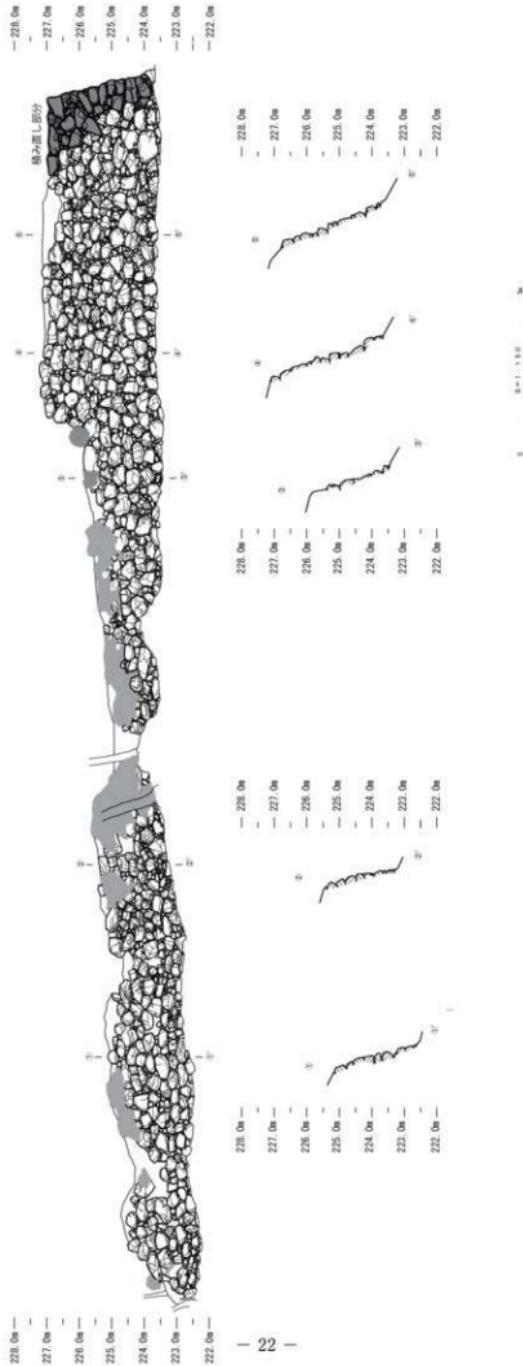


図 33 美濃金山城跡 西Ⅲ(出丸)石垣

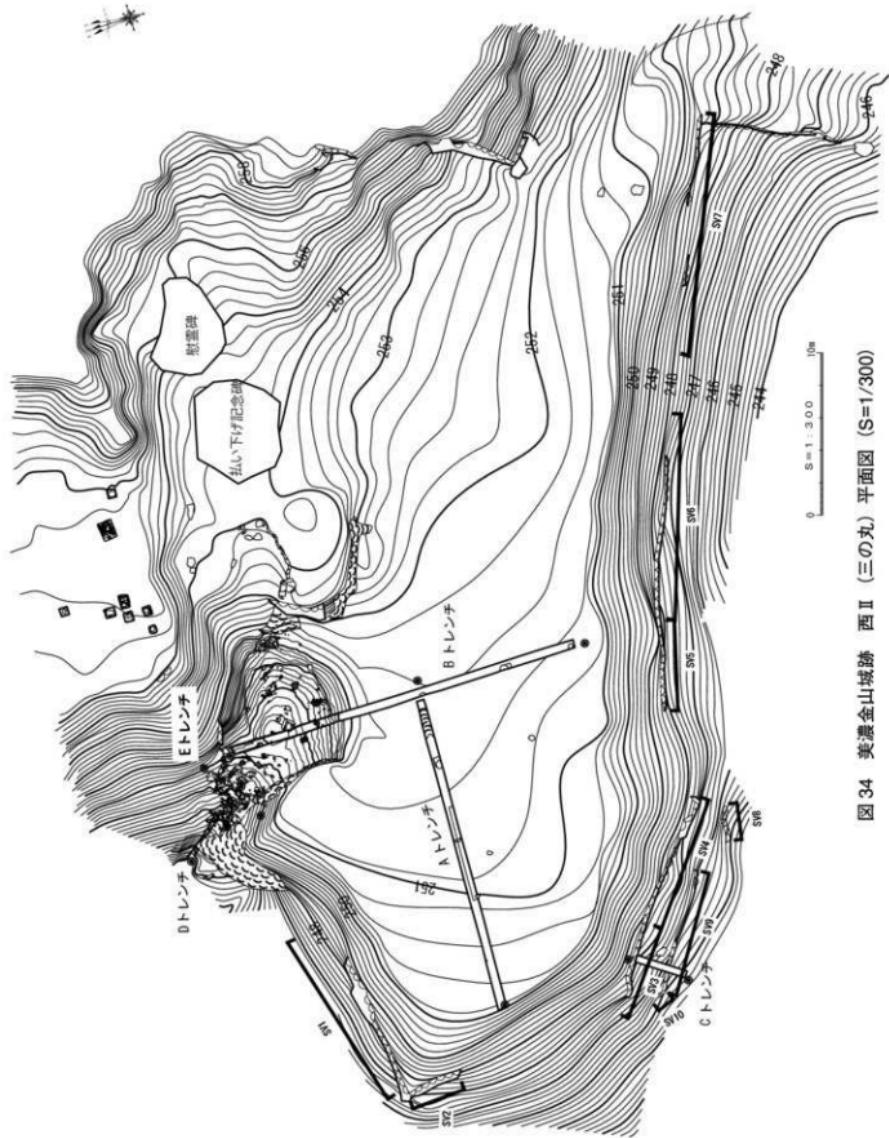


図34 美濃金山城跡 西II（三の丸）平面図 (S=1/300)

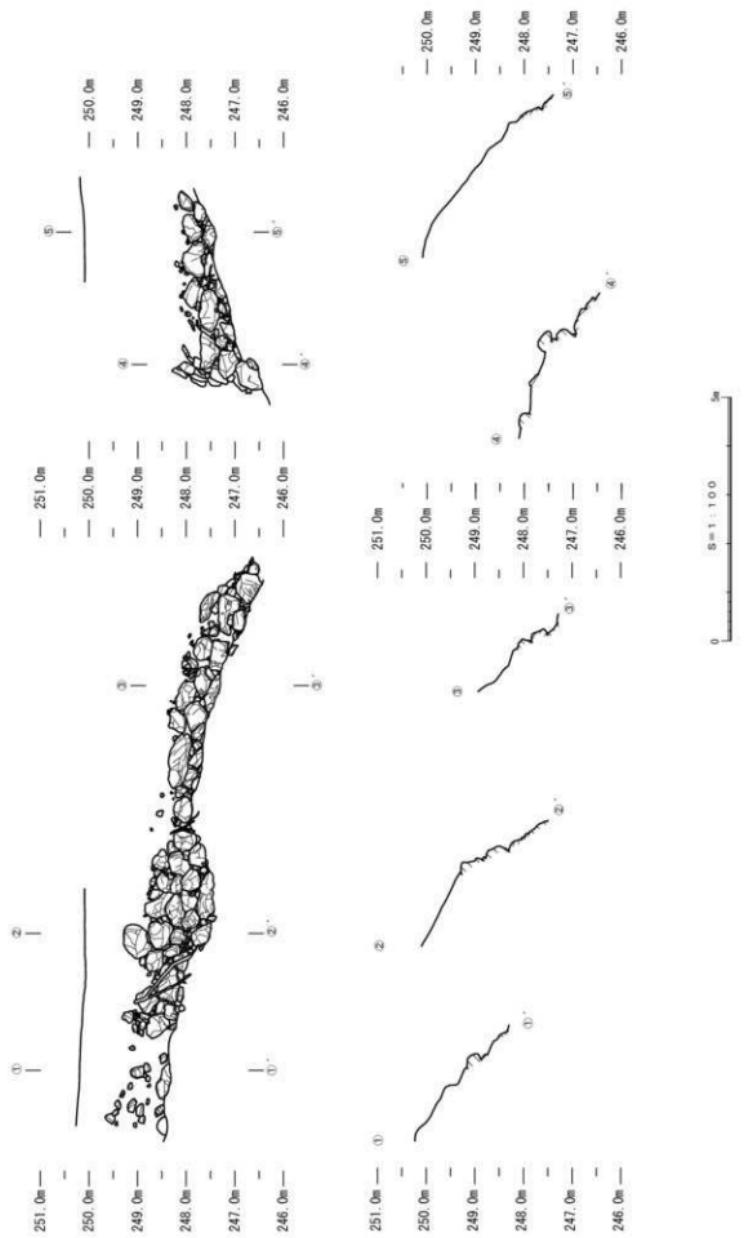


図 35 美濃金山城跡 西Ⅱ(三の丸) SV1

図 36 美濃金山城跡 西Ⅱ SV2

## 第5章 平成25年度試掘確認・立会調査など

### 25-1 大萱牟田洞古窯跡地内立会

#### 1. 調査原因等

可児市大萱字牟田ヶ洞地内において、荒川豊蔵資料館リニューアルオープンのための階段補修、配電線埋設、誘導サイン看板設置が計画され、事前協議がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である県史跡大萱古窯跡群（牟田洞古窯跡）の範囲内にあるため、所定の手続きを経て掘削時に工事立会を実施した。

立会調査は、平成25年9月2日～10月11日に長江真和が行った。



図37 牟田洞古窯跡立会位置図

#### 2. 調査内容

階段補修については掘削を伴わず、既存の腐食がみられる木材の取り外しを行った。配電線部分は40cm程度の掘削であり、堆積土の中から現代の陶片はみられたが、遺構はみられなかった。看板設置部分は昭和以降に造成された石垣の盛土部分であり、盛土内に牟田洞古窯跡に伴う遺構・遺物はみられなかった。

#### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

#### 4. 文書手続

市教委発	平成25年8月9日付	教文第44号	現状変更許可申請書
市教委発	平成25年8月9日付	教文第43号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発	平成25年2月14日付	社文第55号の10	現状変更許可
県教委発	平成25年8月22日付	社文第4号の93	工事立会通知
市教委発	平成25年10月11日付	教文第72号	発掘調査終了報告
市教委発	平成25年10月17日付	教文第44号の3	完了届

### 25-2 銅鐸発掘の地内試掘

#### 1. 調査原因等

可児市久々利柿下入会地内、銅鐸発掘の地（番場遺跡）にて鉄塔建設の計画があり、事前協議を行った。伝承のみで広い範囲が県史跡に指定されている場所であり、鉄塔建設の是非を検討するために、所定の手続きを経て試掘調査を行った。

試掘調査は、平成25年12月20日～平成26年1月9日に長江真和が行った。



図38 銅鐸発掘の地内試掘位置図

## 2. 調査内容

鉄塔建設予定地部分は丘陵頂部にあたり、古墳や弥生墳丘墓の可能性も考えられた。長さ16m、幅1.0mのトレンチを2ヶ所設定し、手掘りによる掘削を行った。掘削深度は10~50cmであり、凝灰質砂岩の岩盤層や褐色土の地山に至る。掘削土（表土・流土）からは山茶碗片が2点出土したが、人為的な盛土や切土、平面・断面ともに掘り込み等の遺構はみられなかった。

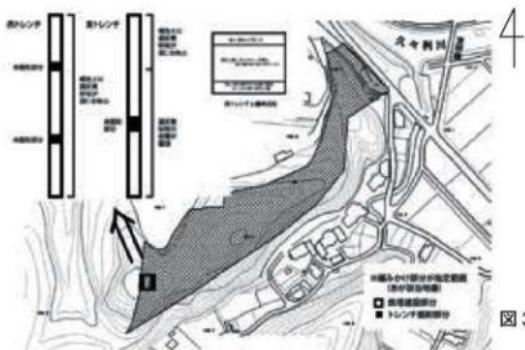


図39 トレンチ配置図  
及び土層概念図

## 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

## 4. 文書手続

市教委発 平成25年11月29日付	教文第85号	現状変更許可申請書
県教委発 平成25年12月13日付	社文第179号の16	現状変更許可
市教委発 平成26年1月9日付	教文第102号	発掘調査終了報告
市教委発 平成26年1月9日付	教文第85号の4	完了届

## 25-3 銅鐸発掘の地立会

### 1. 調査原因等

前項の試掘調査結果により、鉄塔建設の許可し、所定の手続きを経て、支柱部分の掘削に伴う工事立会を行った。

立会調査は、平成26年3月7日~平成26年3月17日に長江真和が行った。

### 2. 調査内容

試掘調査を行い、確認した部分が含まれ、掘削土内に 図40 銅鐸発掘の地内立会位置図  
遺構・遺物はみられなかった。



### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発	平成 26 年 1 月 14 日付	教文第 108 号	埋蔵文化財の届出
市教委発	平成 26 年 1 月 14 日付	教文第 103 号	現状変更許可申請書
県教委発	平成 26 年 1 月 29 日付	社文第 3 号の 568	工事立会通知
県教委発	平成 26 年 1 月 29 日付	社文第 179 号の 17	現状変更許可
市教委発	平成 26 年 3 月 17 日付	教文第 134 号	発掘調査終了報告
市教委発	平成 26 年 1 月 9 日付	教文第 85 号の 4	完了届

## 25-4 兼山盛住町地内立会

### 1. 調査原因等

可児市兼山盛住町地内において、急傾斜地崩壊対策事業が計画され、既存擁壁の取り壊しと新築のための事前協議がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である金山城下町遺跡の範囲内と想定されるため、所定の手続きを経て、工事立会を実施した。

立会調査は平成 26 年 3 月 31 日に長江真和が行った。



図 41 兼山盛住町地内立会位置図

### 2. 調査内容

既存擁壁を除去し、南側の線路敷部分から深さ 9.0m 程度を掘削した。掘削部分は碎石と岩盤部分であり、碎石に混じってガラス片や現代の瓦片がみられた。過去の法面工事を行った際に山裾部分も掘削しており、金山城下町遺跡関連の遺構の有無については不明である。

### 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

### 4. 文書手続

市教委発	平成 25 年 10 月 30 日付	教文第 79 号	埋蔵文化財発掘通知
県教委発	平成 26 年 1 月 20 日付	社文第 4 号の 232	工事立会通知
市教委発	平成 26 年 4 月 7 日付	教文第 10 号	発掘調査終了報告

## 25-5 長塚古墳立会

### 1. 調査原因等

可児市中恵土地内にある国史跡長塚古墳で、既存解説板の撤去及び新規解説板の設置が計画された。看板の設置位置は史跡の範囲外ではあるが、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲

内であるため、所定の手続きを経て工事立会を実施した。なお、既存看板は支柱の根元から切断し、除去している。立会調査は、平成 26 年 3 月 31 日に長江真和が行った。

## 2. 調査内容

解説板の支柱を設置するため、径 0.3m の坑を 2 ヶ所掘削した。掘削深度は約 0.6m である。掘削部分は宅地であった昭和期に盛土にされた深度内であり、掘削土内に川原石や現代の瓦片がみられたのみであった。



図 42 長塚古墳立会位置図

## 3. 調査後の措置

遺跡に関する遺構や遺物は確認できず、計画通り施工しても問題ない旨を伝えた。

## 4. 文書手続

市教委発 平成 26 年 3 月 5 日付 教文第 130 号 埋蔵文化財発掘通知

県教委発 平成 26 年 3 月 12 日付 社文第 4 号の 229 工事立会通知

市教委発 平成 26 年 5 月 14 日付 教文第 28 号 発掘調査終了報告

## 25-6 美濃金山城跡西 II（三の丸）南側石垣測量

平成 25 年度刊行済の『金山城跡発掘調査報告書』の時点では、この部分の石垣の測量を行っていないかったため、図面と改めて文章を掲載する。石垣の位置を示す記号は、本報告書の図 34 の平面図に合致する。なお、掘削は行っておらず、基底石までは図化されていない。

### SV3（図 43）

西 II の南西角部分には二段の石垣が築かれ、上段にあたる。長さ約 4.5m、高さ約 0.8m を測る。西 II の平坦面と高さを比較した場合、推定 3.5m 以上の高さの石垣となる。石材は 0.2 ~ 0.9m 大のチャートで築かれ、傾斜角は 55° で 2 段の石垣が現存している。

### SV9（図 44）

西 II の南西部分に築かれた二段の石垣の下段部分にあたる。長さ約 8.0m、高さ約 1.0m を測る。3 段程度の石積みがみられ、石材の残りは良くないが、裏込石の露頭がみられ、本来は石垣があったと考えられる。上段の石垣に比べ、石垣の傾斜角は 79° と急である。

### SV4（図 45）

西 II の南西部分の上段、SV3 と連続した石垣である。長さ約 8.4m、高さ約 1.0m を測る。石材は 0.2 ~ 1.0m 大のチャートで築かれ、傾斜は 70 ~ 76° である。3 段程度の石積みが遺存し、西 II の平坦面の高さを考えると、元は推定 3.8m 以上の高さの石垣であったと考えられる。

### **SV8 (図 46)**

SV4 の下段に築かれた石垣である。長さは約 2.2m、高さ約 0.8m を測る。石垣の傾斜は 78° であり、SV4 とほぼ変わらない角度で築かれている。0.3 ~ 0.5m 大のチャートで 2 段程度の石垣が築かれ、裏込石の露頭もみられる。同じく下段に築かれている SV9 とは築かれた向きが異なり、間を掘削していないため連続するか否かは不明である。

### **SV5 (図 47)**

長さ約 6.5m、高さ約 0.6m を測る。2 段程度の石積みが遺存し、裏込石の露頭も部分的にみられる。平坦面まで石材が積まれた場合には、10 石程度を積む石垣で高さ約 3.2m と推定される。

### **SV6 (図 48)**

SV5 と連続する石垣である。長さ約 11.0m、高さ約 0.5m である。0.4 ~ 1.0m 大のチャートで築かれ、2 段程度の石積みがみられる。SV6 に比べ、石垣の傾斜はやや緩やかである。西 II の平坦面まで石垣があった場合は、推定 4.4m 程度の高い石垣となる。

### **SV7 (図 49)**

SV3、SV4 の下段に築かれた石垣である。石材がみられない部分もあるが、裏込石の露頭から本来は連続していた可能性が考えられ、長さ約 14.0m と推定される。0.4 ~ 1.1m 大のチャートで築かれ、高さ約 1.2m、2 段程度の石積みがみられる。石垣の傾斜は 77 ~ 80° と同じ面の石垣に比べて急である。また、SV7 より南側には長さ約 5.4m の石垣がみられる。

### **SV10 (図 50)**

SV3 の下段に築かれた石垣であり、下段石垣の西端にあたる。長さ約 1.6m、1 段の石積みによる高さは約 0.4m である。0.3 ~ 0.5m 大のチャートで築かれる。

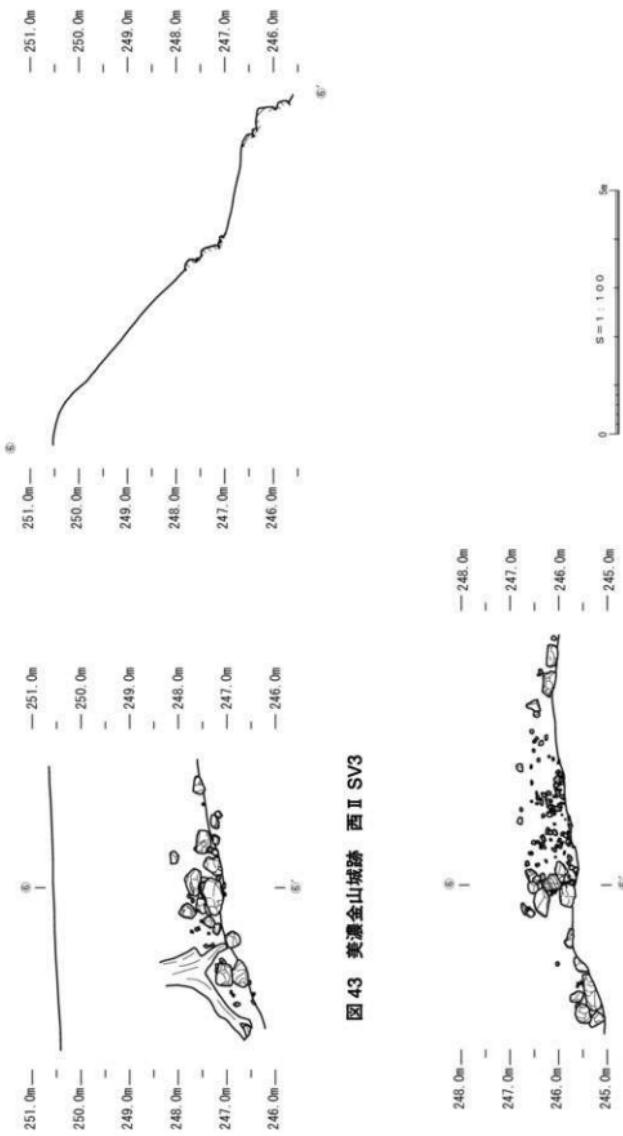


图 43 美濃金山城跡 西Ⅱ SV9

图 44 美濃金山城跡 西Ⅱ SV9

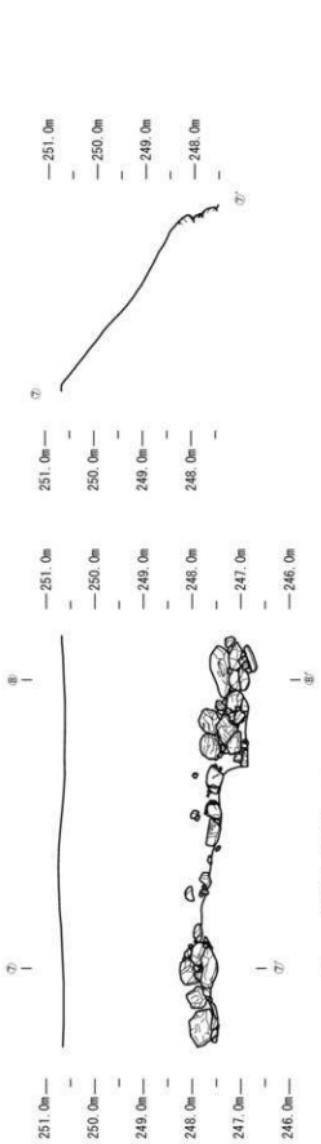


圖 45 美濃金山城跡 西Ⅱ SV4

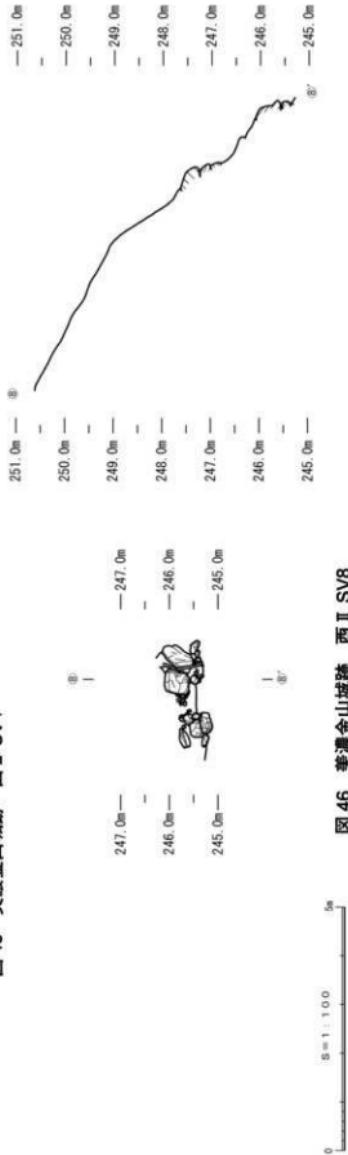
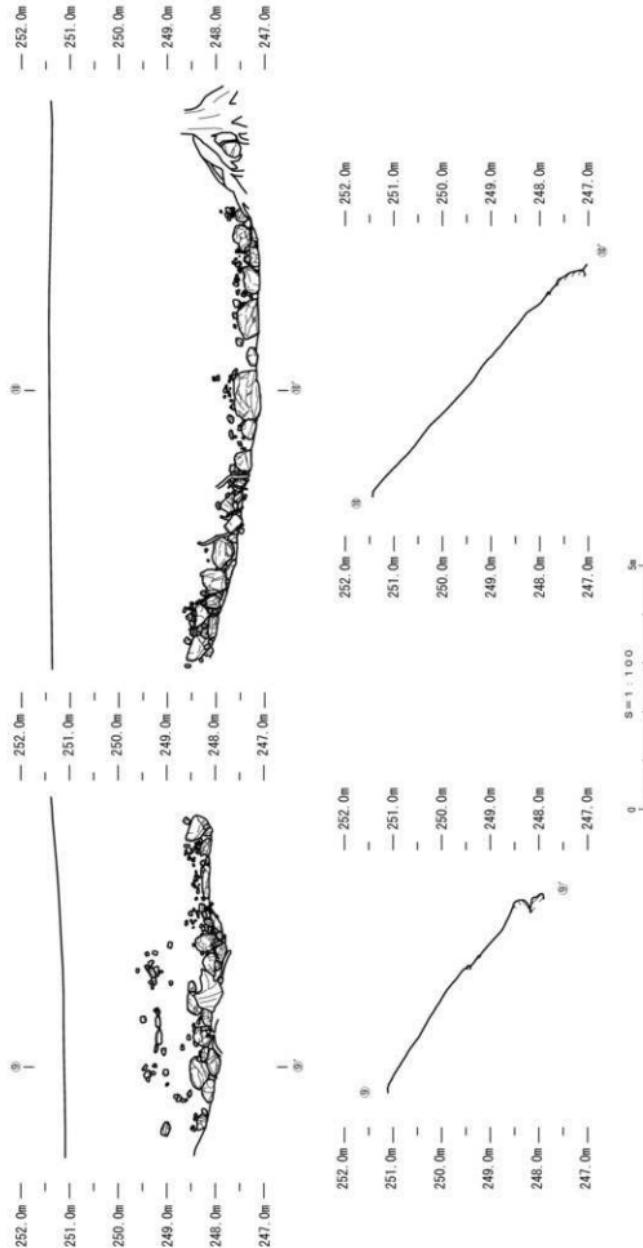


图 46 美濃金山城跡 西Ⅱ SV8

- 31 -



- 32 -

图 47 美濃金山城跡西 II SV5

图 48 美濃金山城跡 西 II SV6

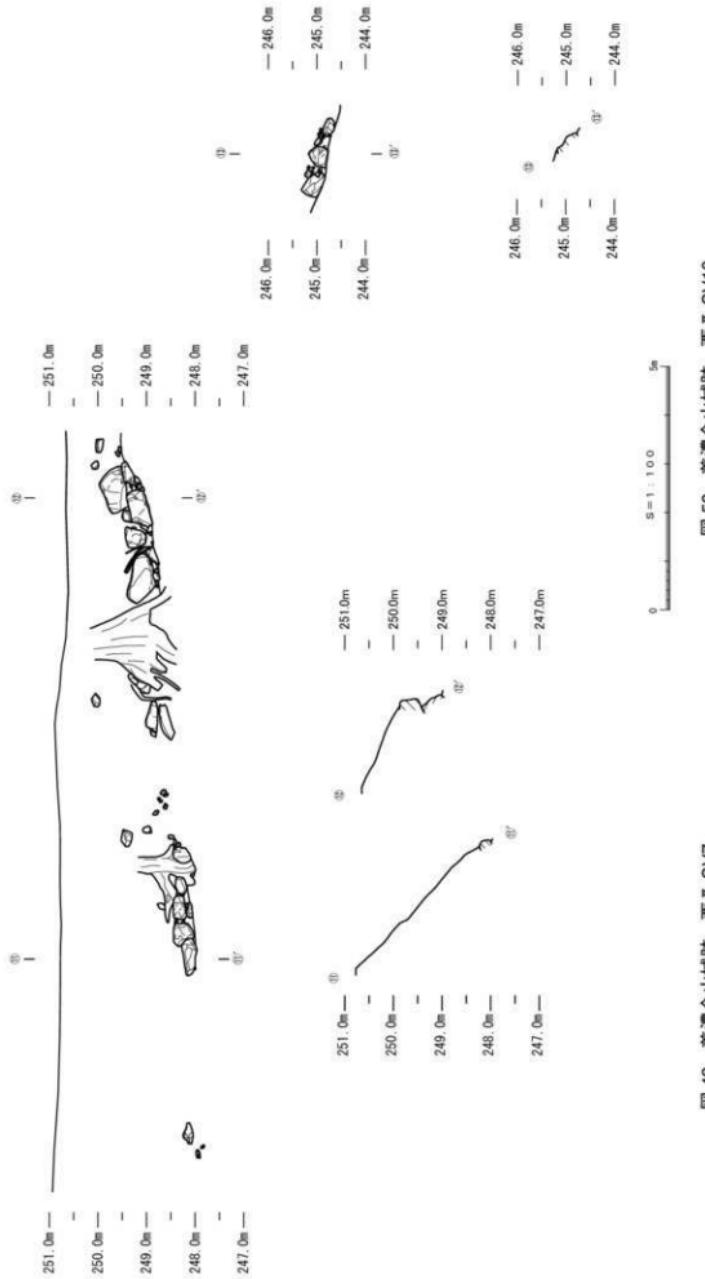


図 49 美濃金山城跡 西Ⅱ SV7

図 50 美濃金山城跡 西Ⅱ SV10



22-1 西トレンチ完掘（東より）



22-1 西トレンチ土層（南より）



22-1 東トレンチ完掘（西より）



22-2 掘削部分全景（西より）



22-2 掘削部分南側土層（北より）



22-3 a トレンチ土層（南より）



22-3 h トレンチ土層（北より）



22-4 南北トレンチ完掘（南より）

図版 2



22-4 東西トレンチ完掘（東より）



22-4 東西トレンチ土層（南より）



22-5 北東トレンチ土層（北より）



22-5 南西トレンチ土層（北より）



22-6 挖削部分土層（南より）



22-7 挖削部分平面（北より）



22-7 挖削部分土層（北より）



22-8 挖削坑土層（北より）



22-9 挖削溝西側土層（北より）



22-10 挖削部分土層（北より）



23-1 東西トレーニング全景（西より）



23-1 南北トレーニング全景（北より）



23-2 南北トレーニング全景（南より）



23-2 東西トレーニング時期不明溝（南より）



23-3 挖削坑土層（南より）



24-1 東側トレーニング（西より）

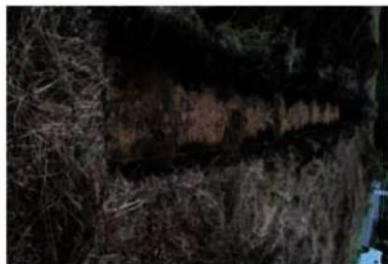
図版4



24-1 北側トレンチ土層 (西より)



24-1 西トレンチ全景 (東より)



24-2 西トレンチ全景 (北より)



24-2 中央トレンチ全景 (北より)



24-2 東トレンチ南端土層 (西より)



24-3 基礎撤去部分土層 (北より)



24-4 基礎撤去部分 (南より)



24-4 基礎撤去部分土層 (東より)



24-5 東側トレンチ（南より）



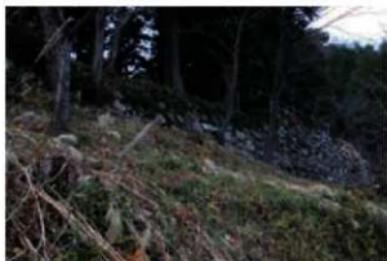
24-5 中央トレンチ（北より）



24-5 西側トレンチ（北より）



24-6 掘削部分断面（東より）



24-7 西Ⅲ石垣全景（南より）



24-7 西Ⅲ石垣中央付近（南より）



24-7 西Ⅲ石垣西端（南より）



24-8 西Ⅱ SV1（北より）

図版 6



24-8 西Ⅱ SV1 東端（北より）



24-8 西Ⅱ SV2（西より）



25-1 配電線部分（西より）



25-1 看板設置部分（西より）



25-2 東トレンチ全景（南より）



25-2 西トレンチ中央付近（北より）



25-3 支柱立会部分（北より）



25-4 擁壁設置部分土層（西より）



25-5 看板設置部分土層（南より）



25-6 西Ⅱ SV5-6（東より）



25-6 西Ⅱ SV3・10（南より）



25-6 西Ⅱ SV4（南より）



25-6 西Ⅱ SV7（南より）



23-1 出土遺物



24-1 出土遺物



25-2 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	かにし しないいせき はっくつちょうさ ほうこくしょ						
書名	可児市市内遺跡発掘調査報告書（H22～25年度）						
副書名							
巻名							
シリーズ名	可児市埋文調査報告						
シリーズ番号	47						
編集者名	長江 真和						
編集機関	可児市教育委員会						
所在地	〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地						
発行年月日	西暦 2014年12月26日						
ふりがな	ふりがな 所在地名	コード		北緯	東経	調査期間 面積	調査原因
所収遺跡名		市町村	遺跡番号				
美濃金山城跡	ぎふけんかにしない 岐阜県可児市内	21214	4477他				
他27地点							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
美濃金山城跡	城跡	中世	石垣				

可児市埋文調査報告 47

### 可児市市内遺跡発掘調査報告書

平成26年12月26日 印刷

平成26年12月26日 発行

編集・発行 可児市教育委員会

〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地

Tel 0574-62-1111 Fax 0574-63-6751

印 刷 丸理印刷株式会社



